「もとはこちら」の お話し

No.61　　今月のテーマ　　奇跡の一本松

見聞きするものみなお経

行為行動みな祈り

（平井謙次作　日めくり　カレンダーより　）

北原ゆり筆

おめでたい事、慶ばしい事の象徴として、昔から私達はよく松竹梅を用います。

松は古くから日本人に好まれ、全国各地に植えられてきました。江戸時代の東海道五三次などでも、並木道といえば松というくらいに、この松の並木道はあちこちにあるようです。

そしてそういう街道だけではなく、昔からちょっと見栄えのする日本家屋の入り口などには、門かぶりと称される枝振りの良い松の木が好んで植えられ、情緒や風情を添えてきました。また、そういう門かぶりのあるような立派な家屋には住めない私どものような庶民でも、お正月ともなればしめ縄飾りとともに形ばかりの門松などを立て、襟を正してその年の年神様をお迎えするという昔からの習わしがあります。

この様に松の木は、日本人にとってはとても馴染みの深い木であるとともに、縁起の良い木、神聖な木として多くの人々に受け止められてきたのです。

ところで先の大震災以来、「奇跡の一本松」として日本中の人々のこころの支えであったあの陸前高田の松の木が、とうとう枯れてしまいました。

それは景勝地高田の松原にあった松の木で、あの三月十一日の大地震や大津波にも耐えに耐えて、七万本もあった松の木の中で、ただ一本だけ、生き残ったものでした。

テレビなどでも繰り返し紹介されていましたが、それは希望の松の木とも、復興の象徴とも呼ばれておりました。朝な夕なに一人ですっくと立っていたあの松の姿は、今なお私たちの心に焼き付いています。

しかし多くの人々の祈りも空しく、また樹木医など専門家たちの様々な尽力も叶わず、結局その松の木は、大津波による塩害のために、根元から枯れていってしまったのです。

樹齢はざっと二五〇年という事でした。

松の寿命

枯れてしまったと知った時は、本当に残念な思いをしたのですが、しかし考えてみればその二五〇年という年月は、私達人間の寿命と比べ、途方もなく長い時間であるような気がします。

二五〇年といえば、例えば一人の子供が成長して親となり、仮に最初の子供をもうけるまでの期間を二五年として勘定してみますと、ざっと十代もさかのぼる事になります。親の、親の、その親の、というようにして十代さかのぼったその時代は江戸時代の中期であり、あの八代将軍徳川吉宗がなくなった頃に当たります。西洋では一七八九年にフランス革命が起こり、またアメリカではジョージ・ワシントンがアメリカの初代大統領になった頃ですから、考えてみれば松が生きてきたその時間の長さに驚かされます。

江戸時代とかフランス革命等というのは、私達にとっては教科書に出てくる遠い昔の話であり、遙かかなたの事のような気がします。しかし昨年三月まで生きていた七万本の松の木たちにとっては、それは決して古い過去の話ではなく、自分の生きていた時代の話なのです。

二五〇年前のある日、もしかしたらこの松の種は風に乗って、後に高田の松原と呼ばれるようになった地に飛んできたのかもしれません。そしてそこに根を下ろし、芽を出し、爾来二五〇年、昼は太陽、夜は月、そして虫や鳥たちを友としながら年月を重ね、風雪に耐え、時には巨大な台風や津波にも襲われるという様な危険な目にも遭いながらもそれらにめげず、しっかりと足を踏ん張って毎年少しずつ年輪を重ね、次第に幹も太くなり現在に到ったのでした。この松の木が生きた時代は、江戸から明治、大正、昭和、そして平成に入り二三年も経っていたのです。

ところで一般的に言って、松という木は一体どれくらい生きるものなのか、ちょっと調べてみましたところ、アメリカにはなんと樹齢三千年と言われている松の木があるそうです。そしてそれらの中には、四千年を超えるものもあるという事で、古代松と呼ばれています。

また松ではありませんが、スエーデンには樹齢九五五〇年といわれている老木があるそうで、私達人間の寿命と比べ、樹木というものの中には、途方もなく長

く生きるものがあるようです。
　そんな中での陸前高田のあの松の木たちは樹齢二五〇年。初めは二五〇年というその長さに驚かされましたが、しかし樹齢三千年、四千年というような古代松に比べれば、二五〇年などは、まだまだ若いうちに入ります。
　ですからもしも今回のような大地震や大津波などに遭う事がなければ、この陸前高田の松の木たちは、これからももっともっと生き続ける事が出来たかもしれません。

生命あるものの宿命

　歯を食いしばり、大地震や大津波にも耐えて残ったあの一本松は、自らも傷だらけになりながら、私達を励まし続けてくれました。しかしそれでもとうとう力尽きてしまったこの松の木は、そののち人々の手によって彫刻され、仏様の姿に生まれ変わりました。そしてこれからは仏の姿となって、震災の為に命を落とされた多くの人々のご冥福を祈りながら、生き残った私達のその耐え難い大きな悲しみを癒しつつ、再生復興を願う私達を慈しみ、見守り続け、励まし続けて下さる事になったのです。
　また震災の後に採取された種からは、十八本もの苗木が育てられているという事です。そしてまた接木や挿し木などにもなって、その命を明日につないで行っているという明るいニュースも伝えられてきています。
　このような素晴らしい松の木を、何としても絶やすことなく保存したい、残したいという多くの人々の強い願いと、松自身の持つ強い生命力が、私達をその様な行動に駆り立てたということでしょう。

　ところで私達は松ではなく人間です。しかし「命の表れ」という点においては、松も人間も全く同じで、なんら違いはありません。
　命あるものはどれだけ長く生きたとしても、いつかは必ず滅びるという宿命にあります。しかし人であれ、松であれ、夫々が自分に与えられたその時代、その環境の中で、懸命に生きようとする姿は、あの松の木がそうであったように、神々しく、輝いて見えるものです。私達は無意識のうちにこの松を自分に重ね合わせ、「命の限り、強く生きよ！」と強く望んだはずです。私達は松を通して、改めて、生きる事の尊さを教えられたのではないでしょうか。

　松は松であっても、単なる松ではありません。見るもの聞くもの全ての中に私達は自分の姿を見ています。
　松の命は決して松だけのものではありません。一人の命は決して一人だけの命ではありません。一つの命は全ての命と繋がりあっており、命の連鎖は永遠に起きているのです。どんなに滅びてもとの形がなくなってしまったとしても、命そのものが消え去り無くなる

という事は絶対にないからです。

すべてが　神技

ところで、人であれ、松の木であれ、そのものがひとつの命を宿し形あるものとしてこの世に生まれて来るという事は、全くの奇跡です。そして夫々が生かされているという事も、やはり大きな奇跡です。そしてあえて言うならば、それらの形を消滅させ、滅亡させていくという事も、やはり大きな奇跡であり神業なのです。

神業とは、間断なく丁度良い時に、丁度良い最高の事を起こし続ける事をいいます。人間などではとうてい及ばないそういう神技を起し続ける事が、奇跡なのです。

しかし私達は常に、そういう神業である奇跡の連続を、瞬間、瞬間、体や心を通じて体験し続けているのです。

一人ひとりの存在は、いわばあの奇跡の一本松と同じです。短命であろうが長寿であろうが、その事を肯定しようが否定しようが、私達すべての人は今、神業によって生かされ、そして自分にとって丁度良い最高の事を一瞬の休みもなく体験しながら生きているのです。

私達を生まれさせ、生かし、そしていつかは滅していかせるその大きな無限の力、偉大な存在に思いを馳せ、私達は決しておごり昂ぶることなく、自然の力によって生かされているという事実を、今一度しっかりと自覚しなければなりません。

たしかに命は永遠無限のものですが、この肉体、この環境は全て有限のものです。自然の流れに逆らえば、必ずそれにふさわしいものが形として現れてきます。

初めも知らぬ昔から、営々と繋げられてきたこの命のバトンを、私達は決して途切れさす事なく、しっかりと次の世代につなげていく義務があります。

放射能汚染などのない安心して暮らせる環境を取り戻し、目の前の便利さの為には命をも顧みないというような錯乱状態から一刻も早く抜け出し、「全ての生あるものが、生まれ持った寿命を全うできるような平和な世界」を造るためにも、今こそ一人ひとりが自然の理にかなった正しいものの見方、考え方を学び、それを実行実践に移す事が大切です。

新しい年の初めにあたり、皆様が尚いっそう幸多き一年を過ごされますよう、心よりお祈り申し上げます。

平成二十四年元旦

〔ご案内〕

二月の勉強会は二月四日（土曜日）を予定しています。

勉強会及び月報についてのお問い合わせは、左記まで。

編集発行人　もとはこちら会　資料編集部　北原友也
HP　http://www.motoha-kochira.com
mail:　data3@motoha-kochira.com